



左からセミナーBOOK株式会社取締役執行役員 COOの武淵将弘氏、代表取締役副社長 CTO 事務局長の福田英明氏、代表取締役社長 CEOの大野 晃氏、取締役会長の伊東大介氏、取締役執行役員 COOの砂田桂吾氏

セミナー情報を集約したポータルサイトで業界のレベルアップに貢献する セミナーBOOK株式会社

セミナーBOOK株式会社（東京都千代田区）は、一般社団法人中小企業税務経営研究協会を設立するなど、会計業界の発展に尽力している。大野晃氏が中心となり、新たに設立された企業である。同社の事業は、会計事務所向けのポータルサイト「セミナーBOOK」の運営だ。「セミナーBOOK」は、さまざまな組織が開催する会計事務所向けのセミナー情報を検索し、ブックマークができる点が特徴である。セミナー情報を集約的に管理できるため、メルマガやDMで届いていたセミナー情報を個別で管理するわずらわしさを解決する。本稿では、セミナーBOOK株式会社の代表取締役社長のCEOである大野氏を中心に、同社の創業メンバー5名にお話を伺った。

<https://tax-seminarbook.com/>



大野 晃氏
セミナーBOOK株式会社 代表取締役社長 CEO



伊東大介氏
セミナーBOOK株式会社 取締役会長

セミナー情報を集約したサービス

—— 本日はセミナーBOOK株式会社の創業メンバー5名の皆様に、同社の取り組みについてお話を伺います。まずは大野先生に立ち上げの経緯をご紹介いただきます。

大野 私たちは税務や相続、経営などさまざまな企業が開催する、会計事務所向けのセミナー情報をカテゴリ別に検索できる「セ

ミナーBOOK」というポータルサイトを運営しています。

この「セミナーBOOK」のアイデアを思いついたのは、私がハワイにいたときでした。当時、私は会計事務所のM&Aも経験し、セミナー情報を受け取る側でもあり、セミナー情報を発信する側でもありました。しかし、そのセミナー情報を受信したり、発信したりする手段はメルマガかDMくらいしかありませんでした。私が海外にいたからかもしれませんが、全てのセミナー情報が集約されてい

る場がほしいと感じたのです。

—— 自らニーズを感じたのですね。
大野 もちろん、それだけが「セミナーBOOK」を立ち上げた理由ではありません。私は今後「税理士2・0」の時代がくると考えています。

—— 「税理士2・0」とは、どのような時代なのでしょうか。

大野 これまでの「税理士1・0」時代は、税理士という資格を持っていることで特定の業務をすることができ、それだけでバッジを

持っている価値あった時代でした。ただ、インターネットが浸透した現代社会では、特定の業務ができることそのものには価値はありません。そこで、「税理士2・0」時代のキーワードとなるのが「信用」です。

例えば、「アフィリエイト」や「せどり」という言葉に、なんとなく怪しいイメージを持っている人がいるでしょう。本当は怪しいものではないのですが、多くの人が先入観を持っているので、「アフィリエイトのセミナー」と聞くと、怪しげな顔をする人が多いです。

しかし、「税理士が教えるアフィリエイト」というセミナーであれば、税理士に信用がありますから、受ける印象は全く変わってきます。ですから「税理士2・0」とは、こ

の税理士が持つ信用を使って、何らかのビジネスと掛け算する時代を指しているのです。

顧問料がゼロ円になる時代が来るかもしれないといわれています。そこでこの考え方が必要になると私は考えています。

ただし、AI時代、人生100年時代このような発想をしてビジネスを創造していくためには、まずは知識を入れなくてはなりません。そこで、多くの税理士の先生に税務だけではなく、経営などの知識を身につけていただきたい。そのためにまずまずセミナーを活用してほしいという想いがありました。その啓発活動を今後も進めていきたいと考えたことが、セミナーBOOK設立の経緯です。

—— 「セミナーBOOK」という名前はどのような意味があるのでしょうか。
大野 このポータルを運営するうえで、セミナー情報を投稿してくれる方の存在がとても大切です。その情報発信者にフェイスブックのように気軽に投稿してもらえるようにという想いが込められています。

ただ、運営していくうちに、ブックマークの機能がとても便利に感じるようになりました。ですから、現在は「セミナーをブックマークできる」という意味も併せて持たせてい

ます。

5名が集結して創業へ

—— 「セミナーBOOK」の開発はどのように進んだのでしょうか。開発を担当されたCTO（最高技術責任者）である福田副社長にお伺いします。

福田 私はもともと会計事務所に特化してホームページの制作を行ってきた制作会社を経営していました。大野先生から「セミナーBOOK」の構想を聞き、ポータル系の事業をひとつやってみたいと考えていましたし、内容的にもおもしろく、大野先生が持つ税理士ネットワークを活用すれば事業がうまくいきそうだと感じ、開発をスタートすることにしました。

—— 開発において意識したことはありますか。

福田 最も大切にしているのは、実際に使うユーザーの操作性です。最近ではスマートフォンの利用者が多いので、スマホから見た際の操作性にこだわって開発しました。リリース後にもブックマーク機能を追加し



福田英明氏
セミナーBOOK株式会社 代表取締役副社長 CTO

たり、リマインドのメール機能を追加したりしています。開発はまだ継続中で、アプリ化などにも今後取り組んでいく予定です。

大野 現在も実質的にはリリース済みですが、正式なリリースは7月1日に設定しています。――当初は大野代表と福田さんのお2人でスタートされたのですか。

大野 そうです。もともとは福田さんと2人で起業する予定でした。ただ、ほかにも創業メンバーとして3名に声をかけ、計5名で創業しています。

―― それでは会長に就任された伊東先生に伺います。大野先生から誘いがかった際はどのように感じましたか。

伊東 大野先生とは古い付き合いがありまして、まだ大野先生が開業する前にセミナーで知り合いました。それをきっかけに、大野先生が立ち上げた社団法人で名誉顧問を務めるなど、交流するようになりました。

今回「セミナーBOOK」の構想を聞いた際に、一緒にやるメンバーはみな知っている人間でした。特に気にかけているメンバーで

ことはとてもいいことだと思います。

私も以前は会計事務所を対象としたセミナーの講師をよく務めていました。ただ、話すテーマが同じようなものでも、セミナーの主催者によって値段が異なります。ですから、情報を持っている人と持っていない人の差が激しいと感じていましたし、いいサービスだと思えます。セミナーBOOKへの参加は、業界への恩返しでもあります。

大野 伊東先生との出会いもセミナーでした。セミナーを単に情報収集の場だととらえる人

もいるかもしれませんが、強烈な出会いの場合もあります。その出会いによって人生まで変わるのです。

―― 武淵先生はどのような経緯で参加されたのでしょうか。

武淵 私はシンプルなのですが、大野先生から話を聞いた際に「おもしろそうだな、うまくいきそうだな」と感じたからです。

またこの業界で就職して、自身で独立して軌道にも乗ってきまして、何か新しいことに取り組みたいという気持ちもありました。

大野先生とは長い付き合いもあり信頼していますので、ビジネス的にも回収することはできるだろうと判断しました。

―― 砂田さんはいかがでしょうか。

砂田 私も大野先生には公私共に大変世話になっていました。ある日、大野先生からチャットツールで「まだお仕事の



砂田桂吾氏
セミナーBOOK株式会社 取締役執行役員 COO

もありましたので、私にできることがあるならと参加を決意しました。実は自分の事務所では会計事務所向けの活動はほとんどしていませんので、簡単にいえば声をかけてくれたのが大野先生だったから引き受けたという感じですね(笑)。

とはいえ、もちろん私も税理士としてプロダクトの内容には共感しています。今は税理士の資格を取る人が減っていますし、資格をとっても意識や能力が低い人も少なくありません。ですから、セミナーで勉強してもら

余力ありますか？新しいことを考えているのですが、一緒にどうですか？」と連絡が来ました。内容はまだ聞いていなかったのですが、「やります」と即答しました(笑)。即答できたのは、かなり前から「何か新しいこと、ワクワクするようなビジネスを一緒にしたい」という考えがあったからです。

その後、構想を聞きました。そして、すばらしいメンバーが集まりましたので、自分ができる役割を模索しながら今に至っています。私は営業に注力していくつもりです。

会計事務所とセミナー企画者の双方にもたらされるメリット

―― 会計事務所は「セミナーBOOK」をどのように活用することができるのか、あらためて教えてください。

大野 私も含めてですが、「これに行きたい」とセミナーに主体的に参加する方はあまりいないでしょう。ただ、本来は主体的に参加することでより、知識が身につくと思えます。

しかし、これまでDMやメルマガで情報が届いていましたが、そのセミナーに参加す



武淵将弘氏
セミナーBOOK株式会社 取締役執行役員 COO

セミナー BOOKはさまざまな問題解決のための 情報提供ツールとして極めて有効

セミナー BOOK株式会社 取締役顧問 平川 茂氏



の企画は、前記の問題を解消するために情報提供ツールとして極めて有効だと思っております。その企画に賛同して、私も経営に参画させていただくことになりました。

税理士法の改正により「税理士は研修による資質の向上に努めなくてはならない」とされており、「研修細則（準則）」においては、36時間以上の受講努力義務を課している場合も出てきます。

また、昨今の税理士業務は、顧問先の要望の多様化により、業務の領域が大幅に拡大しており、それに対応できないと顧問契約の解消につながりかねない状況となっています。

しかし、税理士一人ひとり

が経験できる業務の範囲にはおのずと限界があり、未経験の突発的な業務の依頼に対しては、経験をしている税理士と連携して対応せざるを得ない場合も出てきます。

そこで、定期的に研修会を受講する機会を積極的につくり、業務領域を拡大するための質的向上を行うと同時に、セミナー講師や受講者とのネットワークづくりも行うことが必要となります。

今回の「セミナー BOOK」

るかどうか考える時間が取れませんでした。「セミナーBOOK」ではブックマーク機能を使うと、そこからスケジュールカレンダーと連携して、予定をブロックすることが可能です。「セミナーBOOK」がなければ出合えなかったであろうセミナーに参加することで、売上や人の問題など事務所経営の悩みが解決し、人生が変わると信じて「セミナーBOOK」をつくっています。

私たちのように会計事務所を対象としたセミナーを企画する組織にも、大きなメリットがあると感じます。

大野 DMを届けても、見てもみえずに捨てられてしまうケースもあります。そういった意味では、情報の発信者にもメリットがあると思います。

また、さまざまな業者のセミナー情報が同じサイトに並ぶことで、業者にも「よりよいセミナーを企画しよう」という競争原理が生まれます。これは内容的にも、コスト的にも会計事務所へのメリットとなって還元されるでしょう。

さらに掲載される案件の質を担保するためにはばらばらくはフィルタリングを行います。それにより、情報発信者にも安心して使っているかどうか考える時間が取れませんでした。「セミナーBOOK」ではブックマーク機能を使うと、そこからスケジュールカレンダーと連携して、予定をブロックすることが可能です。「セミナーBOOK」がなければ出合えなかったであろうセミナーに参加することで、売上や人の問題など事務所経営の悩みが解決し、人生が変わると信じて「セミナーBOOK」をつくっています。

武測 今後はRPAの活用も進み、これまでの提携業務はゼロになると考えています。そうなったときに、新しいインプットから、新しい付加価値を提供していかなければ生き残ることはできません。

砂田 私は関西を基盤にしているのですが、東京との情報格差をいつも感じています。「セミナーBOOK」は、その格差を埋めるツールになると思いますので、地方の先生にも情報収集のツールとして使ってみていただきたいですね。

大野 AI時代は大変な時代かもしれませんが、ただ、この状況を逆に取れば、よりクリエイティブでおもしろい時代になると思います。まずは「セミナーBOOK」に登録して、行動するところからスタートしてみてください。よろしくお願いたします。

—— 本日は貴重なお話をありがとうございました。皆様のますますのご活躍を祈念しています。

ただきたいですね。

—— 「セミナーBOOK」を利用したい会計事務所はどのようにすればいいのでしょうか。

大野 「セミナーBOOK」のウェブサイトへお越しいただき、10秒ほどで完了する無料登録だけでご利用いただけます。

登録していただくと、税制改正や消費税に関するセミナーの動画の一部、「セミナーBOOK」オリジナルのRPAに関するセミナー動画なども無料でご覧いただけます。このようにセミナーを開催するほどでもないようなトピックスに関しても、「セミナーBOOK」でほとんど配信していく予定です。

また、登録していただいた方には「セミナーBOOK」オリジナルの事務所見学会などを割引で提供することも企画しています。

マネタイズは行動するなかで

考へていく

—— 「セミナーBOOK」の今後の展望をお聞かせいただけますか。

大野 まず、初年度である今年は一万ユーザーを獲得することを目標としています。です

から、マネタイズのことは現段階では考えていません。質を高め、多くの方に見ていただくことができれば、さまざまなニーズが集まるのではないのでしょうか。

例えば、1万ユーザーを対象にアンケートを実施することで収益が取れます。この施策を実施するというわけではないのですが、その段階に応じて考えていけばいいと考えています。そもそも、私たちはこの「セミナーBOOK」以外にそれぞれが収益を持っているんです。ですから、目先の収益にとらわれることなく、サービスの質を高めて、ユーザーを獲得していきたいですね。

—— 最後に読者へのメッセージをお願いします。

福田 「セミナーBOOK」の登録は簡単に完了できるように開発しています。新しい情報を入手したい、セミナー情報を収集したいという税理士の方は、ぜひ登録をお願いいたします。

伊東 私はセミナー、そして「セミナーBOOK」は会計業界のコミュニティーをつくることだと考えています。登録するだけでその仲間になれますので、まずは登録していただきたいですね。